

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104480
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 唐湊の家
訪問調査日	平成20年9月26日
評価確定日	平成20年10月27日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104480
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 唐湊の家
所在地	鹿児島市唐湊3丁目2番4号 (電話) 099-254-6066
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算	14.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.1歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院分院 田上記念病院 西歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲には、住宅をはじめスーパーや幼稚園、大学の学生寮などがあり、地域に密着した環境である。地元で行われる行事への参加はもちろんのこと、ホームの行事にも住民や学生ボランティアの協力がある。利用者の思いを把握するための「したい事、して欲しい事ノート」の活用や、それぞれの役割に対する感謝状贈呈、大学生との交流など、独自の試みが多く見られる。テーマ毎に担当を決めて研修を実施するなど、職員の資質向上にも積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員からのアンケートを基に話し合い、これまでの理念に、地域とのかかわりを大切にして交流を深めて行くことを加えた理念をつくり上げている。研修については、新人・現任ともに計画を作成し、担当制による内部研修の実施や、経験やスキルに応じた外部研修への参加を促進する体制となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はミーティング等を利用して評価の意義を職員に説明しており、それを理解した上で職員一人ひとりが自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティングで報告し、指摘があった項目については対策を検討して改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、ご家族、町内会長、地域包括支援センター職員、ボランティアの学生等、様々な立場の方々が参加している。活発に意見交換が行われ、地域行事への参加が増えたり、ホームの設備改善にもつながっており、有意義な会議となっている。外部評価結果についても報告を行い、改善に向けて話し合いが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回、ご家族にアンケートを実施して率直な意見を引き出せるように努めている。ご家族からの意見も多く出されており、アンケートの結果、必要な場合は改善に努め、対応の結果はご家族に文書で報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、地域活動やお達者くらぶ、おはら祭り等に参加している。また、ホームの行事には住民の協力が得られており、近くの学生寮に住む大学生と2ヶ月に1回の交流会を開いたり、避難訓練に参加してもらうなど、地域との交流が盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員へのアンケートを基に検討した結果、地域との関わりを大切にして交流を深めるとい、地域密着型サービスとしての役割を反映した理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで理念を唱和して共有に努めている。また、年に1回、理念の実践に向けた日々の取り組みについて職員にアンケートを取り、振り返る機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地域活動やお達者くらぶ、おはら祭り等に参加している。また、ホームの行事には住民の協力が得られており、近くの学生寮に住む大学生と2ヶ月に1回の交流会を開いたり、避難訓練に参加してもらうなど、地域との交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はミーティング等を利用して評価の意義を職員に説明しており、それを理解した上で職員一人ひとりが自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティングで報告し、指摘があった項目については対策を検討して改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、ご家族、町内会長、地域包括支援センター職員、ボランティアの学生等、様々な立場の方々が参加している。活発に意見交換が行われ、地域行事への参加が増えたり、ホームの設備改善にもつながっており、有意義な会議となっている。外部評価結果についても報告を行い、改善に向けて話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1～2回の介護相談員の受け入れや、市の担当窓口に出向き報告・相談することで、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時や電話での報告の他に、毎月発行されるかわら版でホームの近況、行事予定、職員の異動の報告や新しい利用者の紹介等を伝えている。金銭管理については、ご家族の訪問状況に応じて、直接又は郵送で月毎の報告を行いサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、ご家族にアンケートを実施して率直な意見を引き出せるように努めている。ご家族からの意見も多く出されており、アンケートの結果、必要な場合は改善に努め、対応の結果はご家族に文書で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員が多く、利用者との馴染みの関係が築けている。やむを得ず異動がある場合は、新しい職員を利用者に紹介して交流する機会を多く持つことで、早く馴染みの関係が築けるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部研修については経験やスキルに合わせた参加を促している。内部研修は職種、経験等を考慮したメンバー構成により、グループごとに研修資料を作成、進行することで、職員一人ひとりがより深く学べる機会となっている。		内部研修で担当するテーマ選定の目的や求められる役割を明確にすることで、さらに意欲を引き出し、職員全体の資質向上につながることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人のグループホーム管理者が集まる管理者会議への参加や他のグループホームへの職員、利用者の相互訪問の機会を通して、意見交換や交流を図っている。今後は他のグループホームと合同で行事を行う計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、ご家族に見学をしてもらい、納得の上で入居を決めていただいている。状況によっては職員が本人を迎えに行き、見学ができるように対応することもある。見学の際は、お茶を飲んでゆっくり過ごしてもらい、ホームの雰囲気を感じられるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であることを理解し、日々のケアの中で利用者から学び、時には助言をもらいながら、お互いに支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット毎に「したい事、して欲しい事ノート」を作成し、利用者の何気ない言葉を書き留めるようにしている。言葉から利用者の思いを把握し、すぐに対応できなかった場合にはノートに記入し、職員間で情報を共有することで利用者の思いを実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	私の求める関わり方シート、24時間生活変化シート、私の姿と気持ちシート、生活のリズムパターンシート等を用いてアセスメントしている。本人や関係者から意向を聞き取り話し合いの機会を持ち、その人らしい介護計画を作成できるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回、計画を見直している。身体状況や希望に変化があった場合は、見直し前でも介護計画を作成し、現状に合った介護計画になるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎や付き添い、ドライブや外食など、本人やご家族の希望に応じて柔軟に対応している。ご家族の希望があれば、宿泊できるように居室を準備している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望によりかかりつけ医を決定している。通院の支援や医療機関との連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては検討中であるが、現時点では対応しないことをホームの方針として定め、本人およびご家族に説明している。重度化や病状悪化など状態に変化があった場合は、その都度本人およびご家族と話し合い、医療機関も含めた関係者間で情報を共有して個々に応じた支援をして行く方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修、実習、ボランティアに対する守秘義務に関する誓約書を作成し、個人情報を適切に取り扱うように努めている。日々のケアの声かけについては職員同士で注意し合い、プライバシーを損ねることがないように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	献立づくりや行事、起床や入浴など日々の日課を職員が決めてしまうのではなく、利用者の希望を取り入れながら、その人らしい暮らしが送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜を育てており、月に2回草取りをして成長を楽しみながら、収穫した野菜を食事に取り入れて喜びを味わえるように工夫している。利用者は、できる事を職員と一緒にに行い、食事の準備に参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めることなく、利用者の希望に合わせて入浴の支援をしている。入浴した日を記録に残し、長く入浴しない方に対しては声かけの方法や時間を変え、タイミングを計りながら少なくとも週2回程度は入浴できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割を持つことで、張りのある生活が送れるように支援している。また、誕生日には職員から利用者へ感謝状を贈り、いつもしてもらっている仕事に対して感謝の気持ちを伝える機会をつくり、利用者の意欲を引き出す努力をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの八百屋やスーパーへの買い物の他、一人ひとりの希望に合わせて外出に出かける機会をつくっている。桜やバラの見学や納涼船での花火見学など、季節を感じられるようなドライブも取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、職員同士で利用者の動きに注意し合いながら日々のケアにあたっている。職員は利用者が外出したい理由を理解しており、行きたい場所を把握して安全に外出ができるように付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもとで避難訓練を行っている。災害時の協力を地域住民に働きかけ、学生寮の大学生が訓練に参加している。応急手当普及員の講習を受けた職員がおり、今後他の職員にも指導していく計画である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連法人の管理栄養士に、栄養バランスなどをチェックしてもらい指示を仰いでいる。毎日の食事、水分摂取量を記録して、職員間で共有を図っている。本人、ご家族からの聞き取りの他に、残食チェックをすることで好き嫌いを把握し、代替の物を提供して、食事を十分に摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の植物を飾り、ホーム内でも季節感を味わえるように工夫している。また、イスをなるべく多く置き、いつでもゆっくり座れるように配慮している。浴室横の脱衣場には昔使われていた鏡台が置かれており、懐かしい雰囲気を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご位牌やテレビなど、本人やご家族と話し合っって居室に持ち込んでもらい、馴染みのある空間づくりに努めている。		